

# 中村医師担当分

第二章 ワクチン接種：効果がなく危険

第四章：「感染症」疾患：神話を払拭する

第五章：動物と病気：さらなる医学神話

第七章：「非感染性」疾患：さらなる医学的誤解

# 第二章 ワクチン接種 効果がなく危険

# 主張

- ワクチンによって免疫はつかない
- ワクチンが命を救うことはない
- ワクチンは安全ではない
- ワクチンは効果的ではない

# ジェンナー、パスツールはペテン師



# クレイトン博士によるジェンナー批判



# ワクチンは腐敗した科学

Apowersoft  
Video Converter

RFB #ultimatefalseflag

Andrew Kavirayan

jimakudaio.com  
字幕大王

Third Time Productions

連中が新たなものを持ち込むのは恐怖ですが、しかし、

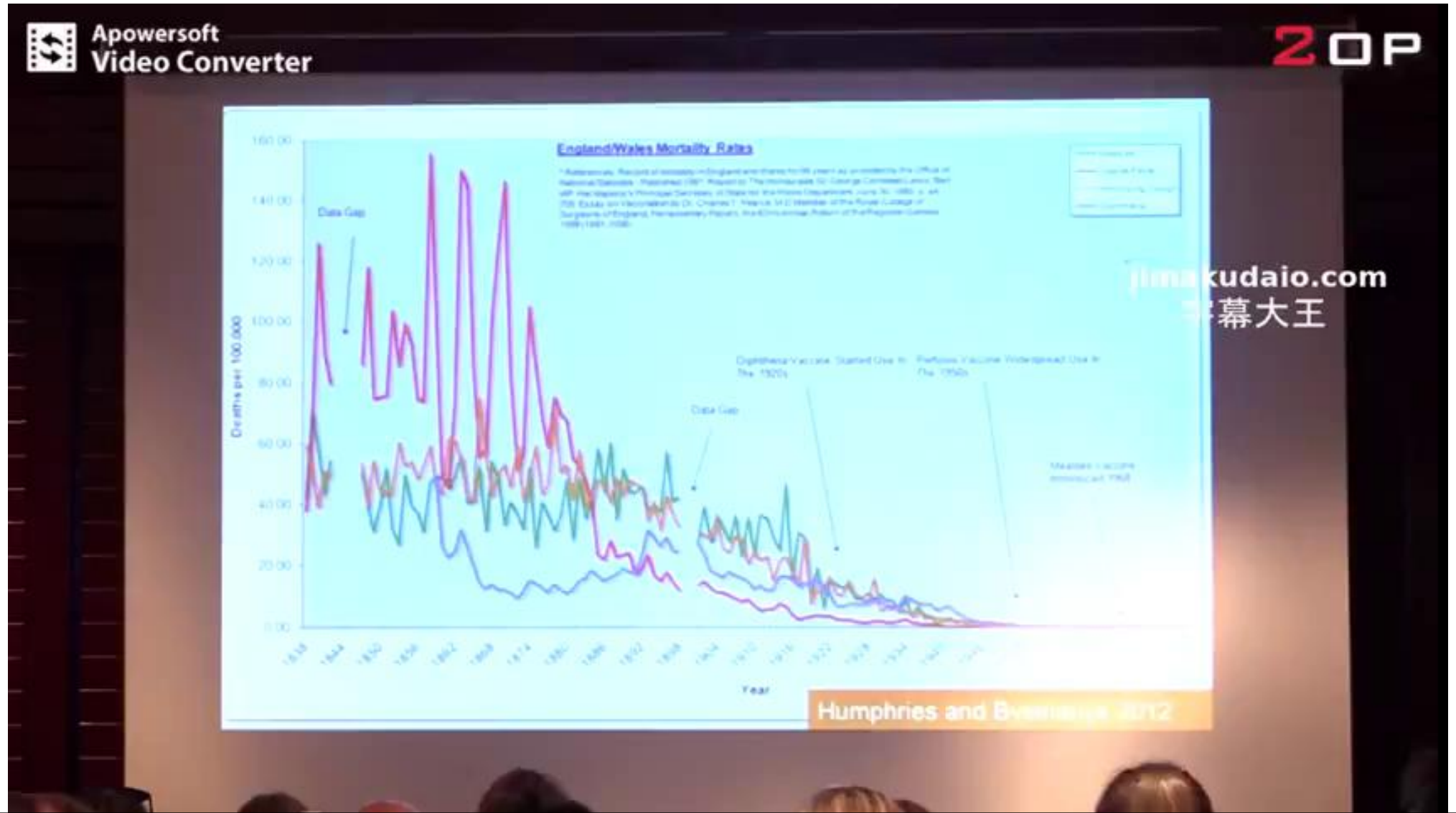




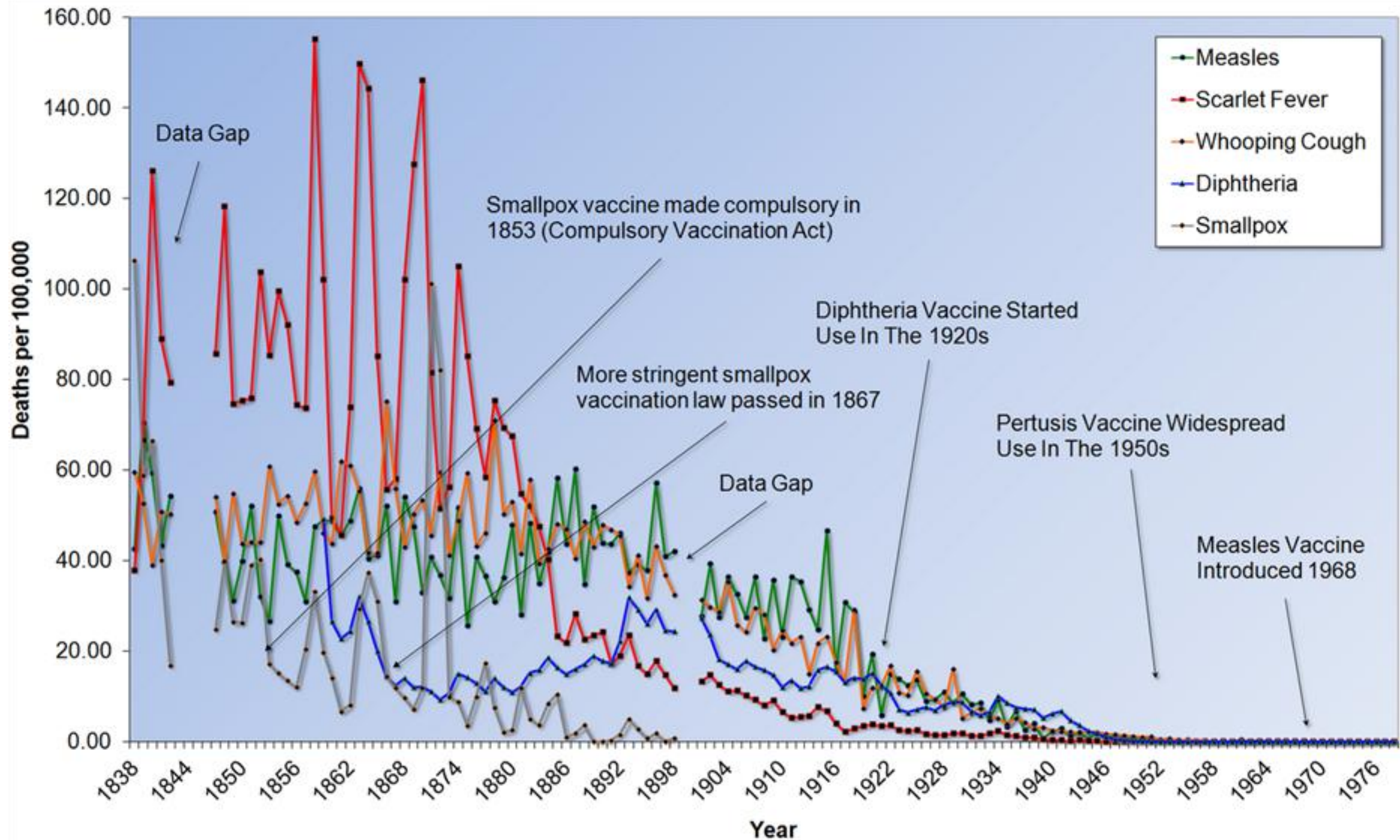
# ワクチンで「ブースト」できる「免疫システム」は無い



# スザンヌ・ハンフリーズ：ワクチンのウソ







# 第四章：「感染症」疾患 神話を払拭する

# 感染症神話を一掃する～ドーン・レスター

<https://www.jimakudaio.com/post-7039>

- 「細菌」なるものが病気を起こすことの、何の科学的証明もない
- では、なぜ病気が移動するように見えるのか？



この伝染性の感染というのを、

# 1918年（第一次大戦中）のインフルエンザ （スペイン風邪）

- 2000万から1億人が犠牲になったとの主張
- WHOの説明とは非常に異なる症状を経験  
「人々が出勤途中に突然インフルエンザになり、数時間で死亡してしまった」
- エレノア・マクビーンの証言  
この戦争で良く言われたことは、「敵の銃弾(Shot)よりもワクチンの注射(Shot)の方が兵士をより殺した」である。
- 主な治療薬は「アスピリン」、記事より  
1918年には薬物動態データはなかったが、(現在のものが)示すことは、アスピリン療法によって「スペイン風邪」にかかりやすくさせることにより、深刻な肺疾患が見られた。
- アニー・ラリー・ヘイズの証言  
二人の著名な医大教授、ターンブルとマッキントッシュが様々な嗜眠性脳炎つまり「眠り病」を報告したが、これは彼らの監督下におけるワクチン接種によるものであった。
- 1931年の記事  
ワクチン接種後の脳炎は病原不明の病気であり、近年になって現れたものである。これは、最近の天然痘ワクチンの出現以外に要因が見当たらない。



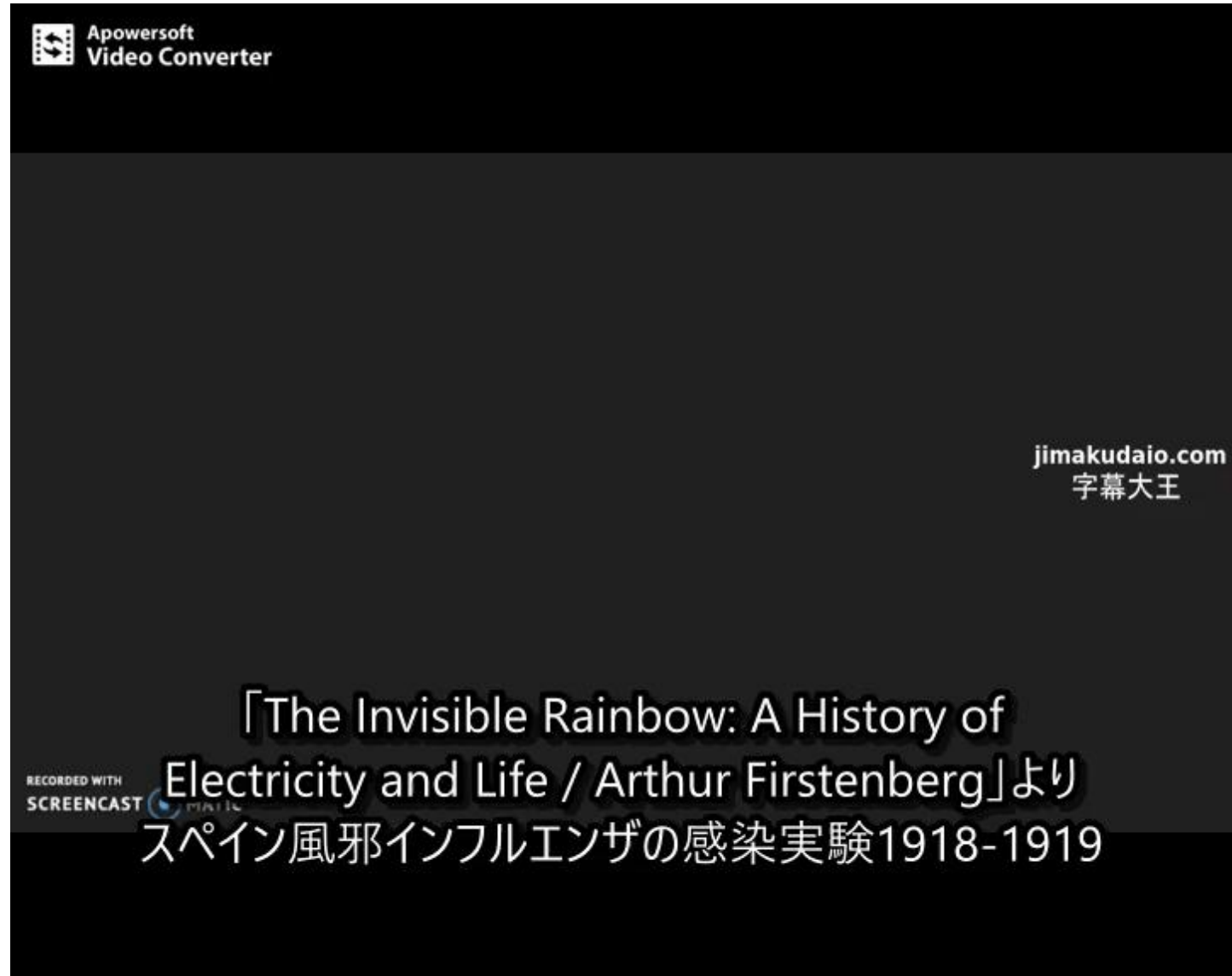


Apowersoft  
Video Converter



様々な異なる人達、世界の別の人達が、別の影響を受けてたんです。

# 「The Invisible Rainbow」でのスペイン風邪説明



# 「Virus Mania」、スペイン風邪について

<https://www.jimakudaio.com/post-8140>

- 医療歴史家が驚いたことは、医師達やメディアがスペイン風邪の結果起こった大惨事に沈黙を貫いたことだ。Kolataが彼女の本で書いたことだが、その当時の米軍勤務のトップ医師であるVictor Vaughanがいたが、彼の464ページの回顧録の中で、このメガ大惨事については、たったの一段落しか書いていないのである。しかも、Vaughanはすべてを良く記憶しているのである。彼の本は1926年に出版された、戦争からそう長くもなくだ（そして彼はおそらく、この恐ろしい出来事を忘れてはいまい）。Kolataは書く、「この大流行について書くことを期待される誰かがいるとしたら、それはVaughanだ」と。

HIV/エイズのウソ

# エイズの原因ウイルスは存在しない





# PCR発明者キャリー・マリス

## 「Peter Duesberg / Inventing AIDS Virus」序文

<https://www.jimakudaio.com/post-8206>

- HIVと呼ばれるウイルスがエイズという病気を引き起こすなどと、一体全体なぜほとんどの人々が信じているのか、何の理由も我々は発見できなかった。
- それとまた発見できなかったことは、なぜ医師がAZT(Zidovudine)という毒性の薬を人々に投与するかだ。彼らはその血液中にHIVに対する抗体が存在するという以外は何の症状も無いのである
- 我々は過ちを犯すのが人間であることは知っている。しかし、HIV/エイズ仮説は最悪の間違いである。

# 天然痘のウソ

<https://www.jimakudaio.com/post-8279>

# アメリカ先住民の壊滅的な死亡 天然痘

ネイティブアメリカンを絶滅させたのは本当か



## 一般的な説

入植したヨーロッパ人により病原体(天然痘,麻疹,インフルエンザ,腺ペスト,ジフテリア,チフス,コレラ,猩紅熱,水疱瘡,黄熱,百日咳など)が持ち込まれた

➡ **免疫のない数百万人の原住民が感染、死亡**  
したとされるが、、、

# スタナード博士、Eduardo Galeanoによる

- 軍隊は野生になり、先住民を盗み、殺し、強姦し、拷問し、想像した金の宝庫の所在を明かすよう彼らに強要した
- 強引な労働の無限供給がある限り、インディアンを死ぬまで働かせてから、別の先住民と交換することは、適切に養い世話することよりも安かった。
- ペルーにおいて、スペインの恐ろしい初期の頃に、鉱山やプランテーションで強制労働従事したインディアンの平均余命は3～4ヶ月に過ぎなかったと思われる。

- カリブ諸島人口が姿を消したため、ついに貢物が停止した。彼らは完全に絶滅した
- 彼らの多くは、仕事ではなく、牽制の方法として服毒し、他は自身の手で首を締めた
- インディアンが征服者の攻撃の狂乱から逃れようとし、作物は畑で腐敗するがままに放置された。
- わずか20年以内に...ブラジルの先住民族はすでに絶滅の危機に瀕していた。



ポリオのウソ



時間とともに毒物の変化があったことです、  
それが病気を起こしていると。

# スモン病のウソ

<https://www.jimakudaio.com/post-8144>

ピーター・デュースバーグ / Inventing The AIDS Virusより

# スモン病とは？

- 1955年から1970年にかけて日本で発生した感染症
- 1964年の東京オリンピック時には、埼玉県戸田市に流行し、「戸田奇病」と言われた
- 感染した者は、縁談が破談になり、隔離され、自殺したものが500名
- 15年の間、ウイルス学者は「スモン病ウイルス」を発見したと発表し続けた。
- しかし。。。

# ただの薬害だった！

- 整腸剤に含まれるキノホルムを接種するとスモン病症状が発生
- 入院すると、同じくキノホルムの整腸剤を与えられ、症状が悪くなる
- ウイルス研究に資金投入され、ウイルス学者は、先を争いウイルスをつきとめようとし、薬害の可能性を無視してきた。
- 1970年に薬害であることが判明
- しかし。。。



# 薬害スモン病に見る繰り返される科学者のデタラメ

<https://www.jimakudaio.com/post-8168>

- 科学者の頭が悪すぎて、10年以上ウイルスのしわざと思い込み、その偏見からウイルス仮説に反する証拠を無視し続けた。
- 医師の頭が悪すぎて、その病気の治療のために投与していた薬が、まさにその原因だった(ことに気が付かなかった)
- 厚生省役人の頭が悪すぎて(あるいは故意に)他国で危険とされている薬を製造認可してしまった。
- メディアが偏向しすぎていて(製薬会社に都合が悪いので)、この教訓を日本国民に周知させていない。

# 第五章：動物と病気 さらなる医学神話

# 狂犬病のウソ

<https://www.jimakudaio.com/post-7353>

- ライオネル・ドール  
ルイ・パスツールがウサギを「狂犬病」にした方法というのは、頭蓋骨に穴を開け、脳に汚物を詰め込むことだった。科学ではなく、単純に野蛮なホラである。  
パスツールは、そのワクチンでただの一つの命も救ったことを証明できないが、極めて確かなこととしては、その治療によって多くの人間が死亡したことだ。
- ドクター・ブルエット  
実際にドクター・ブルエットが証明したものとしては、狂犬病ワクチンが詐欺であるばかりではなく、害をなすことだ。
- ドクター・モーデン  
動物において、いわゆる狂犬病とされるものは、基本的には、虐待か栄養不足か、あるいはその両方である。
- ドクター・ジョージ・ウイルソン  
私は自身の職業が大衆をミスリードしていることを告発する。パスツールの狂犬病予防ワクチンは、私や他の方が信じるどころでは、騙しの道具である
- Hans Ruesch  
19世紀にパスツールが狂犬病の「問題」を解決したと医学生は教わる、犬の実験のおかげでだ。彼ら、そして大衆が教えられないこととしては、狂犬病を起こすウイルスを、彼もその後継者も特定していないことである。

# 狂牛病 (BSE) のウソ

<https://www.jimakudaio.com/post-8505>

- マーク・パーディ  
BSEの症例が全くなかった事実には私は打たれた。これらの牛たちが、原因と見なされる肉骨粉 (MBM) の成分を含む食事を許されてきたにも関わらずだ。
- その研究を通じて、マーク・パーディが発見したことは、BSEの原因としてよりありそうなことはホスメットである。ウミバエを駆除するための「洗剤」として牛に使われる化学殺虫剤だ。
- マーク・パーディ  
ウシバエキャンペーンを行った他のいくつかの欧州国 (例えば、仏、スイス、アイルランド等) では、殺虫剤の低い容量を使用した。そして、当然ながら、それに比例して結果のBSE症例は少なかったのである。

Video Converter



英国での大きなこととして、狂牛病がありますが、

# 第七章：「非感染性」疾患 さらなる医学的誤解



# 扱われるトピック

- 心血管疾患 (CVD)
- 化学物質過敏症
- 電磁波過敏症
- 湾岸戦争症候群
- 自己免疫疾患
- 糖尿病
- 多発性硬化症
- ギランバレー症候群
- アレルギー
- ピーナッツアレルギー
- アトピー性皮膚炎
- 喘息
- 関節炎
- 内分泌疾患及び障害
- 先天性疾患
- ダウン症候群
- 脊椎披裂 (二分脊椎)
- 突然死症候群
- 自閉症
- がん